

船舶事故調査報告書

令和元年 9 月 25 日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	衝突
発生日時	令和元年 5 月 2 日 08 時 35 分ごろ
発生場所	山口県柳井市柳井港東方沖 柳井港新東防波堤西灯台から真方位 080° 1,170m 付近 (概位 北緯 33° 57.3′ 東経 132° 09.0′)
事故の概要	プレジャーボート由光丸は、西進中、また、プレジャーボート明栄丸は、錨泊中、両船が衝突した。
事故調査の経過	令和元年 5 月 29 日、主管調査官（広島事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	A プレジャーボート 由光丸、3.2 トン Y G 3 - 5 6 4 8 3（漁船登録番号）、個人所有 第 291 - 33686 号（船舶検査済票の番号） B プレジャーボート 明栄丸、1.71 トン Y G 3 - 5 4 4 9 8（漁船登録番号）、個人所有 第 291 - 10776 号（船舶検査済票の番号）
乗組員等に関する情報	A 船長 A、一級小型・特殊・特定 B 船長 B、二級小型・特殊・特定
負傷者	なし
損傷	A 船首部外板に擦過傷 B 左舷船尾部外板に亀裂
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 西南西、風速 約 1.1m/s、視界 良好 海象：海上 平穏、潮汐 下げ潮の初期
事故の経過	A 船は、船長 A が 1 人で乗り組み、約 16ノットの対地速力で西進中、船長 A が左舷方の他船を見ていたところ、B 船と衝突した。 B 船は、船長 B が 1 人で乗り組み、船首を西方に向けて釣りをしながら錨泊中、船長 B が操舵室内で魚群探知機の映像を見ていたところ、A 船と衝突した。
分析	A 船は、西進中、船長 A が、左舷方の他船に意識を向けながら航行を続けていたことから、前路で錨泊中の B 船に気付かず、B 船と衝突したものと考えられる。 B 船は、錨泊中、船長 B が、操舵室内で魚群探知機の映像を見ていたことから、接近する A 船に気付かず、A 船と衝突したものと考えられる。
原因	本事故は、A 船が西進中、B 船が錨泊中、船長 A が左舷方の他船に意識を向けながら航行を続け、また、船長 B が魚群探知機の映像を見ていたため、互いに気付かず、両船が衝突したものと考えられる。

<p>再発防止策</p>	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 航行中は、特定の方向に意識を向けることなく、周囲の適切な見張りを行うこと。 ・ 錨泊中であっても、適切な見張りを行って他船の早期発見に努め、接近する他船を認めた場合は、余裕のある時機に錨索を解放して移動するなど、衝突を避けるための措置を講じること。
---------------------	---